

乙 第 号

中川 信 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

| 報告番号    | 乙第  | 号 | 氏名     | 中川 信  |
|---------|-----|---|--------|-------|
| 論文審査担当者 | 委員長 |   | 教授     | 浅田 秀夫 |
|         | 委員  |   | 教授     | 川手 健次 |
|         | 委員  |   | 教授     | 田中 康仁 |
|         |     |   | (指導教員) |       |

### 主論文

#### Vascularized Bone Grafts from the Dorsal Wrist for the Treatment of Kienböck Disease

キーンベック病に対する手関節背側からの血管柄付骨移植術

Makoto Nakagawa, Shohei Omokawa, Tsutomu Kira,  
Kenji Kawamura, Yasuhito Tanaka

中川 信、面川 庄平、吉良 務、河村 健二、田中 康仁

Journal of Wrist Surgery 5 : 98 - 104, 2016

## 論文審査の要旨

月状骨の無腐性壊死である Kienböck 病に対する手術治療として、手関節背側から血管柄付骨移植術が選択されるが、どこからの移植がよいか明確にはなっていない。申請者は異なる部位から移植を行った症例の術後成績を比較し、それぞれの術式の違いを明らかにした。

3 か所の異なる部位から 28 例の血管柄付骨移植術を施行した。内訳は橈骨背側の extensor 4+5 compartment artery graft が 8 例、1,2supraretinacular intercompartmental artery graft が 12 例、第 2 中手骨頸部背側の 2 dorsal metacarpal neck graft が 8 例であった。術後に手関節痛は VAS で 59 から 18 と改善した。手関節の掌背屈の可動域は 87 度から 117 度、握力は 21kg から 33kg に改善した。Carpal height ratio は 0.52 から 0.53 とほぼ変化がなかった。3 種類のドナー間での機能及びレントゲンの比較では有意差がなく、術後成績は良好であった。

以上より、本研究によって Kienböck 病に対して手関節および手の背側からの異なった 3 種類の血管柄付骨移植術の結果は良好であり、術式間に大きな違いがないことが明らかになった。臨床医学分野のさらなる発展に寄与するものと評価され、博士（医学）の学位に値すると考える。

## 参 考 論 文

### 1.血管腫による手根管症候群の2例

中川 信、玉井 進、水本 茂、黄 文欽、山岡伸行  
日本手の外科学会雑誌 5 : 92 - 95, 1988

### 2.上腕二頭筋長頭腱脱臼を伴った陳旧性広範囲肩甲下筋腱断裂の1例

中川 信、尾崎二郎、玉井 進、増原健二、井上恵介、  
国重義文、奥田寿夫  
Journal of Joint surgery 5 : 141 - 143, 1986

### 3.CT scan で Guyon 管にガングリオンを認めた尺骨神経麻痺

船川 格、中川 信、生駒一憲、眞野行生、高柳哲也  
神経内科 29 : 444 - 445, 1988

### 4.上肢の先天性動静脈瘻並びに血管腫治療における Microsurgical Approach

吉井 尚、玉井 進、福居顕宏、水本 茂、国重義文、  
矢島弘嗣、富田恭治、増原健二、龍見良隆、中川 信、  
中垣公男  
日本手の外科学会雑誌 2 : 736 - 741, 1985

### 5.軟部腫瘍広範囲切除後の再建

一下腿腓腹筋部に発生した Extra-abdominal Desmoid tumor 切除後の再建に  
血管柄付遊離広背筋移植を行った一症例

吉井 尚、中垣公男、中川 信、西山茂晴、森田吉英、  
龍見良隆、笹内信行、三井宣夫、玉井 進、増原健二  
奈良医学雑誌 36 : 44 - 49, 1985

### 6.皮膚欠損を伴う下腿骨骨折の治療

森田吉英、玉井 進、福居顕宏、奥田寿夫、水本 茂、  
国重義文、矢島弘嗣、吉井 尚、西山茂晴、中川 信、

井上恵介、中垣公男

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 28 : 1773 -  
1775, 1985

7. STT 固定術を施行した大菱形骨—舟状骨間手根骨癒合症の1例

吉川隆章、中川 信、船内正恒、矢島弘嗣、玉井 進

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 34 : 1243 -  
1244, 1991

8. 多発性骨髄腫によると思われる両側同時大腿骨頸部骨折の1例

吉川隆章、小野浩史、中川 信、船内正恒、三井宣夫、  
玉井 進

整形・災害外科 33 : 763 - 766, 1990

9. 足関節外果骨折に対する Fibula Plate の使用経験

三浦太士、木佐貫 修、吉本恵則、中川 信、矢島弘嗣

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 45 : 233 - 234,  
2002

10. 長期ビスフォスフォネート内服中に両側非定型的大腿骨骨幹部骨折をきたした症例

黒川紘章、中川 信

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 54 : 1161 -  
1162, 2011

11. 関節リウマチ前足部変形に対する中足骨遠位短縮斜め骨切り術に内固定を追加した1症例

小杉真一、中川 信、吉田 淳、田中康仁、高倉義典

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 55 : 1419 -  
1420, 2012

12.両側橈骨頸部骨折遷延治癒の1例

井上大典、中川 信、吉田 淳、小杉真一、田中康仁

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 56 : 561 -

562, 2013

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに整形外科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 28 年 11 月 8 日

学位審査委員長

皮膚病態医学

教 授 浅田 秀夫

学位審査委員

運動器再建医学

教 授 川手 健次

学位審査委員（指導教員）

運動器再建医学

教 授 田中 康仁